

カンボジア 工場労働者のための子宮頸がんを入口とした 女性のヘルスケア向上プロジェクト

Newsletter from SCGO-JSOG Project on Women's Health and Cervical Cancer

No. 29 April 2018

第二回 工場での子宮頸がん一次検診を実施

2018年4月29日(日)、プノンペン経済特区(PPSEZ)にて第二回目の集団子宮頸がん一次検診を行いました。今回は日系企業5社の女性工員を対象とし、97名が受診しました。

今までの経験を生かし、検診開始時刻までには全てのセッティングが終了し、時間通りに検診が開始されました。バーコードを使用した登録・口頭による問診・HPV検査を用いた子宮頸がん検診についての説明・検診者へのアンケート調査の一連の流れもスムーズで、これまでに培ってきた経験や活動の成果が十分に発揮された工場一次検診となりました。

各企業の受付時間を午前と午後に分けて混雑を回避する対応がとられ、午前中の検診をクメールソビエト病院チーム、午後の検診を国立母子保健センターチームが担当しました。



受診者は持参した個人 ID カードを提出し、助産師が、事前登録した参加者リストと照合



受付で受診者にそれぞれバーコードを発行し、アンケートやインフォームドコンセントが書かれた用紙と検体容器を渡す



検診開始

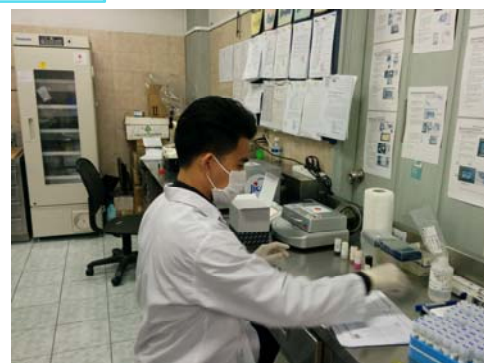


経験を活かし検診は円滑に行われました

検診終了



採取した検体と受付名簿を照合



検査室で careHPV を用いて HPV 検査を実施

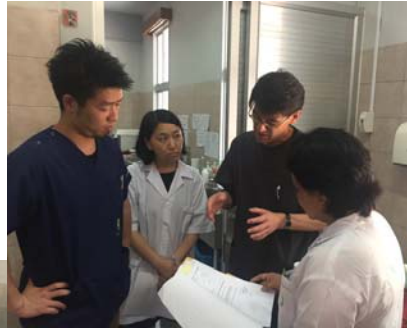
日本産科婦人科学会員の医師による実地指導

2018年4月25日～29日の間、東京慈恵会医科大学より矢内原臨医師、小田嶋俊医師が派遣され、プロジェクト対象の国立3病院で実地指導が行われました。

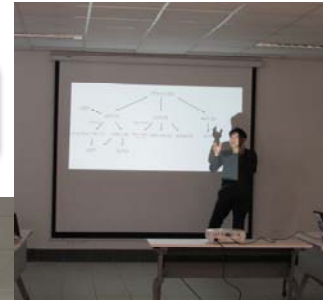
カルメット病院では症例相談を受けての技術指導、国立母子保健センターでは子宮頸がん二次検診(3月14、15日実施)後のフォローアップ、クメールソビエト病院では2月6日に行われた子宮頸がん一次検診の結果を受けて行われた二次検診(4月27日)の技術指導が行われました。

さらに、カンボジア産科婦人科学会(SCGO)の医師たちと共に意見を出し合いながら「工場検診プロトコルの見直し会議」を行い、SCGO 理事との会合で「これまでの活動成果と今後の方向に向けた協議」も行われました。

(写真右、下)
国立母子保健センターでの技術指導風景。スタッフみな、多くの事を吸収しようと非常に熱心に指導を受けています。



(写真右)
会議で説明を行う矢内原医師



(写真左)
会議後に全員で集合写真

派遣を終えて

東京慈恵会医科大学 産婦人科学講座
小田嶋俊 矢内原臨

今回の派遣は2018年4月25日～4月29日までの日程で行われ、主な活動内容は、国立3病院でのコルポスコピー・LEEP 指導、プノンペン経済特区での工場1次検診の視察、子宮頸がん検診プロトコルの見直し、5月の日本産科婦人科学会学術講演会でのポスター発表の準備でした。コルポスコピーに関してはカンボジア医師達の技術は十分に信頼できる程度と考えられ、今までの多くの先生方の御指導の賜物だと感じました。下平式高周波手術器を用いたLEEPについては、前回、本学が派遣した時期に導入され、指導を開始したことが臨床現場で使用されていることに感慨深いものがありました。しかしその経験はいまだ乏しく、今後の継続的な指導の必要性を感じました。工場検診に関しては、検診の流れが十分に検討され、大きなトラブルなく遂行されていました。また工場検診プロトコルでは、現在の問題点を抽出し、SCGOの医師達とディスカッションをしながら改訂を行いました。

今回の派遣に際し、2年前に指導したことが臨床現場で実施されていることについて本プロジェクトの支援がうまく進行していることを実感しました。また改めて、現地医師たちの医療へ向き合う真摯な姿勢に対して感心しました。一方で、まだ技術的に不安要素がある点や、技術向上による新たな問題点が浮上しており、今後も継続的な支援が必要であると思われました。カンボジアは社会・経済全体も含め、いまだに発展途上であり、先進国からの支援・介入に依存している現状があります。これまで以上に彼らの自主性を促しつつ、我々が適度な距離感を保ち、良好なバランスの取れた相互関係の構築を行いながら支援を行っていくことが必要であると思われま。本プロジェクトには、上田医師・石岡助産師など、新たなメンバーが参加され、カンボジア医療をさらに良くしようという新たな活力を感じました。最後にこの場を借りて、派遣期間中に現地で御対応いただいた藤田則子医師・上田あかね医師・石岡未和助産師、その他のスタッフの方々に深謝いたします。

4月28日～30日の日程で、日本産科婦人科学会渉外担当常務理事、東京慈恵会医科大学の岡本愛光教授が派遣されました。

まず、これまでの活動成果と今後の方向に向けた協議をおこない、その後プノンペン経済特区における工場一次検診の視察、プロジェクト対象3病院(クメールソビエト病院、カルメット病院、国立母子保健センター)の視察、更にカンボジア保健省 ENG HUOT 事務次官を表敬訪問しました。

総括

日本産科婦人科学会渉外担当常務理事
東京慈恵会医科大学 産婦人科学講座
岡本愛光

プノンペン経済特区における工場1次検診は大変スムーズに回転し、HPV検査を用いた子宮頸がん検診についての説明もしっかりとしていた。はじめてのカンボジア視察であったが、これまでご尽力されてこられた木村副理事長、幹事やその大学関係の皆様、藤田先生をはじめとする国際医療センターの方々、そして関係者の皆様に敬意を表したい。

各病院やカンボジアの医療保険制度の状況をまのあたりして、さらなる技術の向上、病理医・検査士の教育や保健教育の拡大、医療システムの整備のために、当学会の継続的な支援は重要であると思われる。事業継続のためにも公的資金の獲得は必須であり、できれば学術的な共同研究を視野に入れたAMEDなどの資金獲得も考慮すべきであろう。現在、日産婦の幹事をはじめとする先生方が交代で年3回カンボジアを訪問して貢献しているが、管理を経験している医長クラスの先生が3-6カ月などの一定期間滞在し、腰を据えて指導することが最も効率的にカンボジアの産科婦人科レベルの向上させるのではないかと感じた。

最後にこの場を借りて、派遣期間中に現地に対応いただいた藤田則子医師・上田あかね医師・石岡未和助産師に深謝したい。



工場での一次検診を視察する岡本教授(写真左)



今後に向けた協議を行う SCGO カナル理事長と岡本教授(写真中央)



プロジェクトを取り巻く動き

- 3/11-4/6 : 上田あかね医師カンボジア派遣
- 4/17-4/30 : 上田あかね医師カンボジア派遣
- 4/19-5/31 : 石岡未和助産師カンボジア派遣
- 4/20-24 : 松本安代医師カンボジア派遣
- 4/25-29 : 矢内原臨医師、小田嶋俊医師
カンボジア派遣
- 4/26 : 国立母子保健センターにて子宮頸がん二次
検診後のフォローアップ
- 4/27 : クメールソビエト病院にて子宮頸がん二次
検診工場検診プロトコルの見直し会議
- 4/28-30 : 岡本愛光医師カンボジア派遣
- 4/28-5/4 : 藤田則子医師カンボジア派遣
- 4/28 : これまでの活動成果と今後の方向に向けた
協議
- 4/29 : プノンペン経済特区(PPSEZ)にて
第二回 子宮頸がん集団一次検診

2018年5月10日(木)～13日(日)の日程で、第70回日本産科婦人科学会学術講演会が仙台市で開催されます。

カンボジア産婦人科学会からはカナル理事長、健康教育担当スン理事、マリアン医師の3名が参加予定。マリアン医師はポスター発表も予定されている為、4/27(金)に日本産科婦人科学会会員医師、カンボジア産婦人科学会(SCGO)理事、SCGO 医師たちの前で予演会を行いました。SCGO 医師はポスター発表の経験が少なく、予演会は良い機会になったと同時に、プロジェクトのこれまでの検診結果のまとめを共有する事もできました。